

さくら



令和7年11月4日(月)

人間関係の基本を考える（その1）

初対面でも、とても感じのよい人がいます。また、いつも会っている人でも、その人といふると心地よく感じたり、またお会いしたいと思う人がいます。自分もそんな人であります。このような人には、いくつかの共通する事柄があります。今日は、その中の2つを皆さんに伝えます。それぞれの内容を実践することで、今も、皆さんのが将来社会に出たときも、人から「印象の良い人」「好かれる」人として思われるでしょう。

「挨拶（あいさつ）」で相手の心に迫ろう

ご来校されるお客様の多くから、「堀中の生徒は元気に挨拶してくれますね」と言っています。これからも、元気な挨拶を大切にしていきましょう。

ところで、挨拶の語源は禅語の「一挨一拶（いちあいいっさつ）」です。「挨」は「心を開く」や「押す」、「拶」は「心に近づく」や「迫る」を意味しています。つまり、あいさつは「互いに心を開いて相手の心に近づく行為」なのです。素敵なおいさつを交わすことは、人間関係やその場の雰囲気を良くすることにつながります。

ただし、挨拶をするときに心がけてほしいことがあります。それは、「自分から」、「笑顔で」、「はっきりした口調で」ということです。元気なく暗い表情で、もごもごとした挨拶では相手には伝わりません。

言葉遣いはその人の印象を決める

口は悪くても、人柄がとても良い素敵な人はいます。学生時代にアルバイトをしていたお店の親方がそうでした。仕事ではぶっきらぼうで荒い口調なのですが、プライベートでは人生相談にのってくれたり、助けてくれたりと、スタッフを大切にする人柄の良い人物でした。しかし、初対面ではそのような人だとは分からぬのです。

初対面であったり、よく知らない人が馴れ馴れしい言葉や乱暴な言葉で話しかけてきたら、皆さんはどのように感じますか。きっと不快な思いをしたり、相手に対して信頼感を抱くことはないでしょう。言葉はその人の人となりと捉えられます。

人から好印象を持たれる人は、必ず相手に対して失礼のない言葉や、相手が不快にならない言葉を選んで使っています。相手のことを思った言葉遣いをしましょう。

次回の「さくら 第29号」は、「人間関係の基本を考える（その2）」として、「悪口を言わない」「相手を肯定する」を題材にします。皆さんなりに、この二つのことについて考えてみてください。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

